

令和6年度 学校評価
【生徒・保護者編】
データと考察

実施内容

対象：全生徒及び全保護者

実施時期：令和6年12月3日から13日

回答者数：	生徒	397名（86.5%）	在籍	459名
	保護者	238名（55.2%）	家庭数	431

アンケート集計区分

<全校>

- ・生徒-学校生活
- ・生徒-教科の理解
- ・保護者

<学年別 ※クロス集計>

- ・生徒-学校生活-1年
- ・生徒-学校生活-2年
- ・生徒-学校生活-3年
- ・生徒-教科の理解-1年
- ・生徒-教科の理解-2年
- ・生徒-教科の理解-3年

<全体> 学校生活の分析と考察

学校生活は楽しいですか

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が94%であり、「少しそう思わない」「思わない」と回答した生徒が6.1%だった（昨年との増減なし）。保護者においては、肯定的回答が92.4%であった（昨年度比1.7ポイントダウン）。

本校の生徒のほとんどが学校生活を楽しく送っていることがわかる。

学校生活全般において、「自主」を重点とした行事や話し合いを多く取り入れた授業、認め合いの雰囲気づくりなど、日頃の教育活動の成果が現れている。

<生徒> 学校生活の分析と考察

心配ごとや困ったことがあるときに担任の先生や学年の先生は相談しやすいと思いますか

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が75.1%であり昨年度比2.7ポイントダウンであった。

教育相談体制の充実を一層図っていくことが課題である。生活係会での情報共有と生徒対応の方針検討などはもとより、教員一人ひとりが生徒の様子をよく理解するとともに気持ちに寄り添い、「いつでも話していいよ」といった受容的な感覚をもって生徒に日頃から接していくことを大事にしていく。また、「SOSの出し方研修」も引き続き行っていく。

＜生徒＞学校生活の分析と考察

悩みごとや心配ごと、困ったことがあるときに周りの人に相談したり、助けを求めたりできていますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が97.7%であり昨年度比0.6ポイントアップであった。

項目2については、肯定的回答が75.1%と他の項目に比べて低かったが、本項目は97.7%と肯定的回答が多く、担任の先生や学年の先生には相談できなくても、友達や家族など身の回りの人に相談したり助けを求めたりできていることがわかる。「SOSの出し方講座」や日頃の生活指導の講話が生徒に浸透していることがわかる。

＜全体＞学校生活の分析と考察

友だちと楽しく過ごすことができますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が98.3%であり昨年度比3.3ポイントアップであった。保護者の回答では、肯定的回答が91.1%（2.2ポイントダウン）であった。

良好な友人関係を築けている生徒がほとんどであることが分かる。授業や行事等において落ち着いた雰囲気、他を尊重できる場面が多く見られることも肯定的回答が高くなっている要素であると考えられる。

1.7%のネガティブな回答をしている生徒に対しても、SC、学級経営支援員を活用して支援を続けていく。

＜全体＞学校生活の分析と考察

学校生活での決まりを守ってきちんと生活できていますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が96.3%であり昨年度比1.9ポイントダウンであった。保護者の回答では、肯定的回答が93.7%であった（3ポイントアップ）。

昨年度と比べて生徒の回答はポイントダウンではあったが、非常に高い数値であり、ほとんどの生徒が学校の決まりを守って生活できている。保護者の理解も進んでいる。

1年生については、2・3年生に比べて肯定的回答が3ポイント程度低いため、上級学年の良さや王桜生の良さを伝えられる場面の設定も考えられる。

引き続き、落ち着いた学校生活を遅れるよう指導していく。

＜全体＞学校生活の分析と考察

委員会や係の仕事に責任をもって取り組んでいますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が94.5%であった（昨年度比増減なし）。保護者の回答では、肯定的回答が87%（昨年度比1.6ポイントアップ）。

ほとんどの生徒が委員会や係活動に対して責任感をもって活動できていることがわかる。「自主」の精神が現れている成果である。

生徒がさらに自発的な委員会、係活動の改善やイノベーションを起こせる活動になるよう支援していく。

＜生徒＞学校生活の分析と考察

行事は楽しく取り組めましたか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が98%であった（昨年度比2.5ポイントアップ）。保護者の回答では、肯定的回答が94.1%（1.2ポイントダウン）。

2年生が1・3年生と比較してネガティブ回答が多かったが、ほとんどが楽しく行事に取り組んでいたことがわかる。

生徒中心となって行事の意義や楽しさを理解している。実行委員会の運営も達成感をもってできていたことが伺える。

<全校> 学校生活の分析と考察

部活動は充実して取り組んでいますか。

部活動に所属している生徒91.2%のうち、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒は81.78%であった（昨年度比1ポイントダウン）。部活動に所属している生徒を分母としたら89.7%の生徒が肯定的回答をしている。保護者の回答では、肯定的回答が79.0%であった（5ポイントダウン）。

生徒の肯定的回答が9割を上回っているのは、日頃の先生方の指導のおかげと、生徒が自主的な活動を行っている成果であることが考えられる。一方、保護者の肯定的回答については、5ポイントダウンしていることから、保護者理解を促していくことが課題となる。

＜生徒＞学校生活の分析と考察

きたコンを決まりを守って使うことができますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒は98%であった（昨年度比1.1ポイントアップ）。

肯定的に回答している生徒について、授業中に授業とは関係のないサイトを閲覧していたり、ゲームをしていたりする様子が散見されることから、98%の数値の信頼性は薄い。ネガティブな回答の1～2%については、何が良くて何が良くないかの理解が図れていると推測できる。

毎年、年度初めに経営支援部で行っているオリエンテーションは、引き続き行っていく。

＜全体＞学校生活の分析と考察

きたコンを家庭学習で有効に活用していますか。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒は58.9%であった（昨年度比4.8ポイントアップ）。保護者の回答では、肯定的回答が82.4%であった（昨年度比2.6ポイントアップ）。

肯定的に回答している生徒について、昨年度よりも4.8ポイントアップしたことから、きたコンを家庭学習で活用できる課題を出す授業も増えていることが分かる。一方、生徒よりも保護者のほうが、きたコンの活用ができていると好評価している。

まずは7割程度の生徒が肯定的回答ができるよう、引き続き、授業改善を含めてきたコン活用を推進していく（教科別）。

＜保護者＞学校生活の分析と考察

授業に意欲的に取り組んでいるように思う。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は85.3%であった（昨年度比1.8ポイントアップ）。

生徒が家庭でも学習の様子を話したり、家庭学習を頑張っている様子、土曜授業公開での学習に向かう姿から高評価につながっていると考えられる。

意欲的に学習に取り組める授業づくりを引き続き推進していく。

＜保護者＞学校生活の分析と考察

王子桜中の教育活動について

三者面談や保護者会等でお子様の様子が十分に伝えられていると思う。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は90.7%であった（昨年度比3.7ポイントダウン）。

高評価ではあるが、昨年度と比べて3.7ポイントダウンしていることから、三者面談、保護者会の工夫をしていくことが課題である。個に応じた指導、支援を行っていることを理解していただくとともに、家庭に応じた伝え方も検討していく。また、保護者会など、全体会の形式の場合も、分かりやすい会運営を図っていく必要がある。

＜保護者＞学校生活の分析と考察

王子桜中の教育活動について

保健室やカウンセリングルームは、身体や心の成長に役立っていると思う。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は89.5%であった（昨年度比4.3ポイントアップ）。

保健室やカウンセリングルームの利用率はそう高くはないが、何かあったときに安心して相談できる環境になっていることが分かる。養護教諭、3名のSC、学年の先生方が連携して生徒、保護者の精神的な安定を図る場所となっている。

＜保護者＞学校生活の分析と考察

王子桜中の教育活動について

給食は、栄養バランスや栄養価を考えて実施されていると思う。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は97.9%であった（昨年度比0.8ポイントダウン）。

栄養バランスはもちろんのこと、とにかくおいしい給食で生徒も楽しみにしている。様々な行事料理や世界の料理など、ふだんから工夫した給食を提供できている。物価高騰の中、クオリティを維持してる努力も生徒・保護者へ理解いただきたい。

＜保護者＞学校生活の分析と考察

王子桜中の教育活動について

学校・学年だよりや王子桜中ブログなどで、保護者に適切な情報提供がされていると思う。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は94.9%であった（昨年度比1.3ポイントアップ）。

学校・学年だよりを楽しみにしているという保護者意見もある。来年度は、学校HPが区の仕様に変更になることから、ブログでの発信については今後の検討課題である。

<生徒> 学校生活の分析と考察

きたコンの活用や話し合い活動（ペア活動やグループ活動等）が授業や学習内容の理解につながっていますか。

肯定的回答について

	R6	R5
国語	91.68	94.7 (3.02ポイントダウン↓)
社会	95.72	96.1 (0.38ポイントアップ↑)
数学	<u>76.07</u>	74.4 (1.67ポイントアップ↑)
理科	85.14	75.3 (9.84ポイントアップ↑)
英語	81.36	89.4 (8.04ポイントダウン↓)
音楽	<u>76.57</u>	70.0 (6.57ポイントアップ↑)
美術	<u>79.59</u>	79.8 (0.21ポイントダウン↓)
保健・体育	92.69	88.1 (4.59ポイントアップ↑)
技術・家庭科	84.13	87.6 (3.47ポイントダウン↓)

国語、社会、保健・体育において9割を超える生徒がきたコンの活用や話し合い活動（ペア活動やグループ活動等）ができていると回答している。理科においては、約10ポイントアップしている昨年度比でポイントダウンの教科はあるが、引き続き9割を維持していく。英語においては約7ポイントダウンしている。

安定的にきたコンの活用、話し合い活動を取り入れた授業改善に取り組んでいく必要がある。